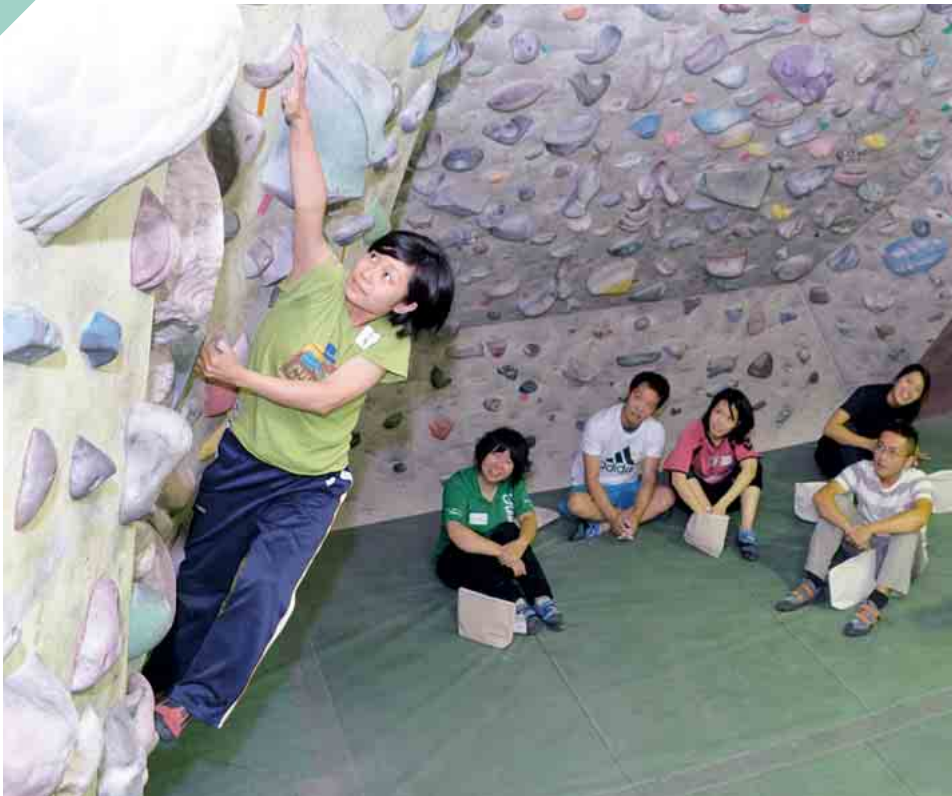


ボルダリング入門講座

楽しみ方を知って身近なスポーツに!

市政トピックス TOPICS



「ホールド」と呼ばれる突起に手足を掛けて懸命に頂を目指す参加者

9月6日、湯原のクライミングセンターで第1回ボルダリング入門講座が開かれました。全4回のこの講座は、東京オリンピックの追加種目となったボルダリングの魅力を多くの人に知ってもらおうと、湯原公民館が初めて企画しました。ボルダリングとは、ロープなどの道具を使わずに、自然の中にある岩や人工の岩壁に登るスポーツです。参加した人たちは、講師からアドバイスを受けながら、頭上にあるゴールを目指して果敢に挑んでいました。

湯原ふれあいセンターの活用を考える みんなで考える使いやすい施設

9月11日、湯原振興局を来年度湯原ふれあいセンターに移転することに伴い、施設の有効活用を考えるワークショップが同センターで開催されました。高校生や子育て世代、高齢者など地域内の21人に設計業者を加えてアイデアの出し合いが行われ、参加者からは「避難所としての機能は必要」「住民が集える場所が欲しい」などのさまざまな声が聞かれました。ワークショップは全3回で、次の開催は10月14日です。



どんな場所にしていきたいか考える参加者



げんき☆輝きエクササイズの実技指導

介護予防サポーター養成講座 支え合いの社会づくり

8月28日に蒜山振興局で、翌29日には久世公民館で介護予防サポーター養成講座が開かれました。講座では、ボランティアグループおひさまクラブの浅間玲子さんの講演やげんき☆輝きエクササイズ、ボール体操、笑いヨガの実技指導などを実施。そのほかにも、参加者はグループごとに「自分ができること」や「地域で支え合うこと」をテーマにお互いに意見交換を行い、介護予防について理解を深めました。



市政に関する動きの一部を紹介します

8/26 北房小学校と北房こども園一般公開

今年4月に開校、開園した県内最大級の木造校舎、園舎が一般公開されました。市内業者が製作した木製家具の展示や、北房地域の特産品の販売も同時に行われ、敷地内は多くの来場者で賑わっていました。



8/28 知識を深めるために

野生鳥獣の生態について知識を深め鳥獣害対策を考えるため、久世公民館でツキノワグマ学習講座が開催されました。講座ではクマに遭遇した時の対処法やクマが出没しない環境作りの大切さなどが説明されました。



市長室から

こんにちは!

分散型社会とSDGsの真庭づくり

国情など諸条件が異なるとは言え、直近の国際的「幸福度調査」によると、日本は57位（因みに1位はフィンランド）。成熟すれば人口が減少する傾向になるとは言え、世界で最も少子高齢化が進む日本。異常気象の中で、安全の脆さが露呈している都市とその外延部。直下型地震が発生すれば甚大な損失が予想される東京。

これらの問題の根底には、日本が過度に中央集権した国家であり、人口、経済、情報などが増々東京圏に集中していることが共通しているのではないのでしょうか。

明治以降、近代化を急いだ日本は強力な中央集権国家を作り、悲惨な戦争の後も同じ手法を用いて復興を急ぎました。豊かになったのち、少子高齢化、底の見えない人口減少が進みつつある現在においても、国家として抜本的な効果的な対策を打たない、打てない？まま今日に至っています。未だに高度成長の発想と価値観から抜け出せず、また、表層的な「効率化」や「便利さ」に囚われているのではないのでしょうか。これは中央政府の責任であるとともに、主権者の問題でもあると考えます。

元来、亜熱帯から亜寒帯までの自然を持つ日本列島は、多様性と多彩で豊かな各地域を築いてきました。明治時代に府県制ができた際、人口が一番多かったのは東京府ではなく新潟県であったように、かつての日本は比較的均衡のとれた国土を形成していました。

人口減少に歯止めを掛け、安全・安心で真に豊かな日本にするには、分散型の国土、国家、社会を創ることです。このような認識を持って、永続的に繁栄する「SDGs未来都市」真庭市を創っていきましょうではありませんか。

S : sustainable (持続可能な)

D : development (開発とか内部からの発展)

Gs : goals (目標)



色別リレーでは奇跡的に同着

9月16日、二川小学校で二川地区合同運動会が開催されました。平成31年3月で閉校する二川小学校にとって最後の運動会。全校児童13人が日頃の練習の成果を発揮し、迫力ある競技や、オリジナルキャラクター！ふたちゃんを活用して運動会を盛り上げるなど、地域に元氣と笑顔を届けました。また、藤森・黒杭、種、三野瀬、立石、栗谷の5地区に分かれた対抗競技では、地区みんなが協力して競技に取り組んでいました。

元氣と笑顔を届ける運動会
最後まで全力・協力で



久世こども園で実習を行った中山早季さん

真庭市は8月6日から9月7日までの期間、インターンシップ実習生17人を受け入れました。インターンシップは、将来のキャリアに関連する職業体験。大学生など17人が、真庭市役所や久世こども園、消防署など14部署で実習に臨みました。実習期間は3日間から10日間までさまざま、実習生は職員に助けられながら、保育をしたり、住民へのインタビューを行ったりするなど、真庭市の仕事に笑顔で挑戦していました。

真庭市役所でインターンシップ
真庭で「働く」を体験